

## 和歌山県，奈良県および三重県における作物在来種 の調査と収集

中山 博貴<sup>1)</sup>・Than May<sup>2)</sup>・江花 薫子<sup>1)</sup>

1) 農業生物資源研究所・遺伝資源第一部・植物探索研究チーム

2) ミャンマー国立シードバンク

## Exploration and Collection Crop Landraces in Wakayama, Nara and Mie prefectures

Hiroki NAKAYAMA<sup>1)</sup>, Than MAY<sup>2)</sup> and Kaworu EBANA<sup>1)</sup>

1) *Laboratory of Plant Genetic Diversity, Department of Genetic Resources I, National Institute of Agrobiological Resources, Tsukuba, Ibaraki 305-8602, Japan*

2) *Seed bank, Central Agricultural Research Institute, Yezin, Myanmar*

### Summary

Exploration mission was undertaken in Wakayama, Nara and Mie prefectures from November 1 to 6 in 1998. A total of 73 seed samples which belong to 12 plant species were collected during the exploration. Seed samples collected include 26 of soybean (*Glycine max*), 15 of azuki bean (*Vigna angularis*), 10 of kidney bean (*Phaseolus vulgaris*), 2 of cowpea (*Vigna unguiculata*), 1 of peanuts (*Arachis hypogaea*), 4 of proso millet (*Panicum miliaceum*), 3 of sorghum (*Sorghum bicolor*), 3 of maize (*Zea mays*), 3 of wheat (*Triticum aestivum*), 2 of barley (*Hordeum vulgare*), 2 of foxtail millet (*Setaria italica*) and 2 of sesame (*Sesamum indicum*).

Landrace of soybean varied in seed coat color (yellow, pale green and black) and crop season (spring and summer sowing). They are mainly used as the material of "ni-mame" (beans cooked with sugar). Some farmers also make miso (fermented soybean paste) from cultivars with yellow or pale green seed coat. Formerly, farmers maintained three types of azuki bean with different crop seasons adapted the various kinds of cropping system, although most of them have already disappeared. Their main use is the material for "seki-han" and "anko" (sweet paste). Landraces of kidney bean varied in the shape of the seed, seed coat color and vine type. They has been mainly used for making "ni-mame", while young pods are boiled and used as a vegetable. All the samples of sorghum and millets are glutinous and are used for making "mochi" (glutinous rice cake with millet flour). Sorghum is called "takakibi" or "kibi", whereas proso millet (*Panicum miliaceum*) was referred to as "inakibi" or "komekibi", which means millet resembling rice grain. Two samples of wheat and barley were also collected,

they are cultivated to make malt for miso.

Most of the local cultivars maintained in mountainous regions of Mie, Nara and Wakayama prefectures were legumes such as soybean, common bean and azuki bean. Cultivation of millets remains mainly in Totsukawa and neighboring villages.

**KEYWORDS:** Wakayama prefecture, Nara prefecture, Mie prefecture, plant germplasm, landrace, exploration, collection

## 1. 目的

作物の在来種は、近代品種の導入や生活様式の変化などによって栽培が激減している。これらを遺伝資源として収集・保存することは緊急の課題であり、これまでに関東・東北・四国・中国・南西諸島などの地域で在来種の探索収集を行った。昨年度の探索調査において、特に奈良県南部には多くの作物の在来種が栽培されていることが明らかになったが、十津川村南部とそれに隣接した和歌山県南東部の山間地域については日程の都合上、調査を行うことができなかった。そこで本年度はこれらの地域を対象に在来種の栽培状況を調査し、種子を収集する。

## 2. 方法

平成10年11月1日から6日まで、和歌山県日高郡龍神村、東牟婁郡本宮町、古座川町、那智勝浦町、西牟婁郡大塔村、すさみ町、上富田町、奈良県西吉野郡十津川村、東吉野郡下北山村、三重県南牟婁郡紀和町において調査・収集を行った。探索経路および調査地点をFig.1に示す。各地域において農家を訪問し、在来品種の栽培状況と各品種の特性について聞き取り調査を行うとともに、種子の入手が可能な場合に若干量の種子の分譲を受けた。

## 3. 調査地域の概要と在来品種の栽培状況

和歌山県日高郡の龍神村では種皮色と粒大の異なるダイズの在来品種が栽培されていた。以前は雑穀のアワ・キビも栽培されていたが、現在はこれらを栽培する農家は見出されなかった。奈良県西吉野郡十津川村においては、昨年度調査できなかった村の南端部に位置する出谷と上葛川の2つの集落を調査した。いずれの集落にも平坦地はほとんどなく、急な斜面に開墾された畑に種皮色の異なるダイズなどの豆類と雑穀類の在来品種が栽培されていた。収集された雑穀類(アワ・キビ・トウモロコシ)はいずれも自家消費で、主として餅を作るために用いられていた。

熊野川の支流の一つ、北山川の流域は平坦地が少なく、集落と畑は溪谷沿いを中心に点在している。そのうち東吉野郡下北山村は昔から林業を主要な産業としてきた地域である。下北山村では農業を辞めてしまった家が多く、現在は自家用に豆類が栽培されているのみである。熊野市の神川地区と神の上地区では現在は在来品種の栽培は見られない。さらにこの地区では、ここ4、5年の間に野生動物による農作物への食害が激化したため、耕作そのものを放棄する農家が増えていた。紀和町小森地区では現在も豆類・雑穀類の栽培が行われていた。この地区では種皮色の異なる(黄・緑・

黒) 3種類のダイズが栽培されていた。またインゲンマメはつる性、種皮色と作期の異なる3つの品種が栽培されていた。

本宮町と大塔村の山間地域では、比較的多くの農家で種皮色の異なるダイズの在来品種が栽培されていた。アズキはかつて早生(3月末播種, 5—6月収穫)、中生(6月末播種, 9月収穫)、晩生(7月中旬播種, 11月収穫)の3種類の作期の品種が栽培され、そのうち晩生品種には大粒種と小粒種があった。また以前は、種皮が黄色の品種も作られていた。これらは前作・後作の作物の作期に合わせて使い分けられていたが現在までにその多くは失われ、各農家はそれぞれ一種類のみを栽培していた。本宮町静川の坂下タツノ氏によれば、この地区の周辺では数年前に雑穀の栽培は行われなくなったが、戦時中までは山林を開墾した畑にソバを含む種々の雑穀の栽培が行われていた。

すさみ町・古座川町・上富田町はその大部分が山間地であるが、川沿いの平坦地には水田が多い。これらの山間部の地域ではダイズ・アズキなどの豆類の在来品種が栽培されていた。他の地域とは異なり、種皮色黄色のダイズの早晩性には早生(9月収穫)と晩生(10—11月収穫)の2種類があった。アズキには以前は大塔村と同様に3通りの作期に対応した品種があった。現在はこれらのうち中生と晩生のものが栽培されており、いずれの品種も小粒であった。これらの作期の異なる品種は前作・後作の作物の作期に対応して使い分けられていた。2戸の農家ではササゲを栽培していた。雑穀としては古座川町の杉本多恵子氏がソルガムを栽培していたが、アワ・キビなどについては見たことがないという農家も多く、これらの地域では雑穀の栽培は元来少なかったものと考えられた。すさみ町の海岸部周辺の地域では自家消費用の小規模な野菜等の栽培は見られたが、調査した農家はいずれも種子を農協や種苗店から購入しており、在来品種の栽培は見出されなかった。

#### 4. 収集品の特徴

10市町村の15集落で、ダイズ26点、アズキ15点、インゲン10点、ササゲ2点、ラッカセイ1点、キビ4点、ソルガム3点、トウモロコシ3点、コムギ3点、オオムギ2点、アワ2点、ゴマ2点の計73点を収集した。

ダイズは種皮色に黄・緑・黒の3種類があった。粒大はほとんどの品種が直径0.7—1 cm程度であり、粒形は円形か楕円形であった。龍神村福井では「ハングロ」と呼ばれる種皮色が緑で目のふちに大きな黒斑のある品種(NC980005)を収集した。大粒品種はこの「ハングロ」と紀和町小森で収集した1品種(NC980028)の計2点であり、小粒品種は古座川町で収集した種皮色黄色の2点(NC980061, NC980065)のみであった。作期はほとんどの品種が夏作であり、春作用のダイズは上述の古座川町の2点のみであった。大半の品種は煮豆用であったが、数軒の農家では味噌の材料としても利用されていた。複数の農家からの聞き取りにおいて、種皮色緑の品種は炊くと種皮色黄色の品種より柔らかくなり、また種皮色黒の品種はそれ以外の品種より若干晩生になって作りにくいとされた。収集したアズキはいずれも種皮色が赤紫の品種であった。作期は大半が夏作であったが、大塔村面川(NC980048)と上富田町鳥淵(NC980072)では4月頃に播種して6月から7月にかけて収穫する春作用の品種が栽培されていた。すさみ町、古座川町、上富田町で栽培されている品種はいずれも小粒品種であった。インゲンマメは種皮色、つるの有無および作期によって区別されていた。種

皮色は赤紫，黒，白，斑などで，粒形は楕円型か腎臓型であった。作期は春作（3—4月播種，6月以降収穫）と夏作（7月播種，10—11月収穫）があり，年に二度栽培できる“ニドナリ”という呼称の品種も2点（NC980020, NC980040）収集された。用途は莢を生食するか煮豆用であり，どちらにも併用しているという農家もあった。ササゲは古座川町（NC980066）と那智勝浦町（NC980071）で各一点ずつを収集した。用途は粥と豆ご飯であった。

雑穀を栽培する農家は調査を行った10か町村のうち十津川村，紀和町，本宮町，大塔村，古座川町で見出された。キビ・ソルガム・トウモロコシ・アワはいずれも主として餅を作るのに利用されており，すべて自家消費用であった。農家のキビに対する呼称は「いなきび」あるいは「こめきび」であり，一方ソルガムは“たかきび”あるいは“きび”と呼ばれていた。本宮町静川ではキビを餅にするほか，冬至にはカボチャと一緒に炊いて食べる。十津川村出谷では「とつかわななば」（NC980008）と呼ばれるモチ性のトウモロコシが栽培されていた。この品種は昨年度の調査において同村山天（やまて）で収集された同名の品種とは異なり，黄色粒と紫粒の「おはぐる」は見られなかった。紀和町小森で収集したトウモロコシ（NC980035）は若穂を生食するほか，煎った子実を茶としても用いられていた。龍神村と十津川村の各一戸の農家では味噌の麴を作るためにオオムギとコムギの在来種を栽培していた。

収集した種子については，半量を元種子として長期貯蔵施設で保存する。アワ，キビおよび豆類の種子は平成11年度に農業生物資源研究所の圃場で栽培して特性評価を行う。その他の種子についても順次特性評価を実施する予定である。

## 5. 所感

今回の調査期間中は天候に恵まれ，また多くの畑作物の収穫期前後であったため農家の方を容易に見つけることができた。また多くの場合，畑で実際の栽培状況を確認しながら聞き取り調査を行うことができた。しかし今回の調査地域における交通の便は概して悪く，予定していた調査経路上の数箇所が台風による崩壊や工事中のために不通となっており，数回にわたって停滞やルート変更を余儀なくされた。昨年度と今年度の探索調査の結果，三重県・奈良県・和歌山県の山間地域における作物在来品種の栽培状況を概ね把握することができた。いずれの地域においても収集された在来品種は豆類のダイズ，インゲンマメ，アズキであった。雑穀類は豆類の在来品種より栽培の減少が進んでおり，奈良県十津川村を中心とする山間部の集落で主に見出された。今回初めて調査を行った和歌山県東部および三重県南部においても，昨年度と同様に比較的容易に在来品種を栽培している農家を見出すことができた。しかしながらこれらの農家の方々の年齢層は概ね60—70歳代が多く，家族の中でもそれより若い世代は和歌山・京阪神などの都市部に移住しているケースが大半であった。また，これらの地域では在来品種はもっぱら自家消費用であり，業者を介した集荷・販売や地域内に組織された“生活改善グループ”などによって在来品種の栽培が積極的に維持・促進されている例も見出されなかった。したがって，今後は地域全体の高齢化に伴って，在来品種の減失が急速に進む可能性がある。

## 6. 謝辞

我々の突然の訪問にもかかわらず、農作業の手を止めて快く調査に協力し、貴重な種子を分譲して下さった農家の皆様のご厚意に対して心からお礼申し上げます。

## 7. 参考資料

中山博貴・勝田(石)眞澄 1998. 三重県および奈良県における豆類・雑穀類在来品種の探索収集. 植探報 14: 1—13

Table1 Number of collected samples in each village

### 地域別の収集品の内訳

#### a) 豆類

作物名 学名 / 調査地域	龍神村	十津川村 <sup>1</sup>	下北山村 <sup>1</sup> ・		本宮町・ 大塔村	上富田町・すさみ町・ 古座川町・那智勝浦町	合計
			熊野市 <sup>2</sup> ・ 紀和町 <sup>2</sup>				
ダイズ <i>Glycine max</i>	5	3	4		7	7	26
アズキ <i>Vigna angularis</i>	0	3	2		2	8	15
インゲン <i>Phaseolus vulgaris</i>	0	2	3		2	3	10
ササゲ <i>Vigna unguiculata</i>	0	0	0		0	2	2
ラッカセイ <i>Arachis hypogaea</i>	0	0	0		0	1	1
合計	5	8	9		11	21	54

#### b) 雑穀類

作物名 学名 / 調査地域	龍神村	十津川村 <sup>1</sup>	下北山村 <sup>1</sup> ・		本宮町・ 大塔村	上富田町・すさみ町・ 古座川町・那智勝浦町	合計
			熊野市 <sup>2</sup> ・ 紀和町 <sup>2</sup>				
キビ <i>Panicum miliaceum</i>	0	1	1		2	0	4
ソルガム <i>Sorghum bicolor</i>	0	0	0		2	1	3
トウモロコシ <i>Zea mays</i>	0	2	1		0	0	3
コムギ <i>Triticum aestivum</i>	1	1	1		0	0	3
オオムギ <i>Hordeum vulgare</i>	1	1	0		0	0	2
アワ <i>Setaria italica</i>	0	2	0		0	0	2
ゴマ <i>Sesamum indicum</i>	0	0	1		0	1	2
合計	2	7	4		4	2	19

<sup>1</sup>は奈良県, <sup>2</sup>は三重県, それ以外は和歌山県

Table 2 List of collected samples  
 収集品リスト

収集番号	学名	作物名	呼称	収集地	農家名
NC980001	<i>Hordeum vulgare</i>	オオムギ	オオムギ	和歌山県日高郡龍神村福井(手谷てだに) Alt. 270m	寒川 進 そうかわ
NC980002	<i>Triticum aestivum</i>	コムギ	コムギ	"	"
NC980003	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980004	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980005	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ハングロ	"	"
NC980006	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオダイズ	和歌山県日高郡龍神村宮代(大垣内おおがいと) Alt. 330m	五味 鶴恵
NC980007	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アキダイズ	和歌山県日高郡龍神村丹生ノ川(小森) Alt. 490m	久保 サヨノ
NC980008	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	トツワナンバ	和歌山県西吉野十津川村出谷殿井 Alt. 422m	岡 イツ子
NC980009	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	モチキビ	"	"
NC980010	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	"	"
NC980011	<i>Hordeum vulgare</i>	オオムギ	オオムギ	"	"
NC980012	<i>Triticum aestivum</i>	コムギ	コムギ	"	"
NC980013	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	"
NC980014	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980015	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980016	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	イナキビ	和歌山県西吉野十津川村上葛川かみくずがわ Alt. 476m	西 恵子 しげこ
NC980017	<i>Setaria italica</i>	アワ	アワ	"	"
NC980018	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	"
NC980019	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	インゲン	"	"
NC980020	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ニドナリ	"	森 下 いさえ
NC980021	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980022	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	"
NC980023	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロダイズ	奈良県吉野郡下北山村佐田さだ Alt. 224m	森 岡 みつる
NC980024	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980025	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	"
NC980026	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	インゲン	三重県南牟婁郡みなみむろぐん紀和町小森 Alt. 139m	松本 勇・秀子
NC980027	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオダイズ	"	"
NC980028	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロダイズ	"	"
NC980029	<i>Sesamum indicum</i>	ゴマ	ゴマ	"	"
NC980030	<i>Triticum aestivum</i>	コムギ	コムギ	"	"
NC980031	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキ	"	"
NC980032	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	トラマメ	"	"
NC980033	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	"
NC980034	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	コメキビ	"	"
NC980035	<i>Zea mays</i>	トウモロコシ	ナンバ	"	"
NC980036	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロダイズ	和歌山県東牟婁郡本宮町静川平たいら Alt. 139m	横 平 ヒロエ
NC980037	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	"	坂 下 タツノ
NC980038	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロダイズ	"	"
NC980039	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオダイズ	"	"
NC980040	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ニドナリ	"	"
NC980041	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	イナキビ	"	"
NC980042	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	和歌山県西牟婁郡大塔村下川上しもかわかみ Alt. 201m	久保 タマエ

Table 2 List of collected samples  
 収集品リスト

栽培時期	栽培法	利用法	地形	その他の情報
11月中旬-5月	条播	味噌	傾斜地	
"	"	"	"	
5月-10月中旬	移植	味噌・煮豆	"	種皮黄、黒目、丸粒
"	"	"	"	種皮緑、黒目、丸粒NC980003よりやや晩生で甘みがある
—	"	"	"	種皮緑、黒目、目の周辺に大きな黒斑、大粒で楕円形。津越の渡瀬氏より入手。
11月収穫	直播	煮豆、昔は味噌	平坦地	種皮緑、黒目、丸粒
7月末-10月中下旬	移植	煮豆・豆腐・味噌	傾斜地	種皮黄、白目、丸粒
6月上旬-9月上旬	"	もち、昔は生食	平坦地	種皮黄、穂長約20~25cm
"	"	もち	"	種皮紫、穂長約10cm、那智合なちあいの姉より入手
4月中旬-9月中旬	"	"	"	穎黄、那智合の姉より入手
11月中旬-6月上旬		味噌	"	那智合の姉より入手
11月中旬-6月		"	"	同じ集落の人より入手
7月10日頃-10月	点播	あん、赤飯	"	種皮赤紫、大粒
6月末-11月上旬	移植	煮豆	"	種皮緑、黒目、丸粒NC980015より美味
6月末-11月上旬	"	味噌	"	種皮黄、白目、丸粒、早生種
4月20日-8月下旬	畝立てで条播	もち(米と半々)	"	穎淡オレンジ色、もちにするとアワよりきれい
"		もち	"	穎黄
7月上旬-10月中旬		あん	"	種皮赤紫、買った「ダイナゴン」は大粒だがなりにがよくない
6,7月-10月下,11月上		煮豆、さやを生食	"	種皮白、楕円形、つる性
7月上旬-10月上旬		"	"	種皮赤紫、長楕円粒、つる性、年2回作れる
7月上旬-10月上旬	移植	煮豆	傾斜地	種皮黄、褐色目、丸粒
"		赤飯、あん、善哉	"	種皮赤紫、さや白、早生
6月15日-10月下旬		煮豆	平坦地	種皮黒、黒目、楕円粒
"		煮豆、昔は味噌	"	種皮黄、白目、丸粒
"		あん	"	種皮赤紫
7月10日頃-10月中旬		さやを生食	"	種皮赤紫、楕円粒、つる性、豆も食べられるが通常さや食
7月上旬-10月下、11月上	点播	煮豆	平坦地	種皮緑、黒目、楕円粒
7月上旬-10月下、11月上		味噌、煮豆	"	種皮黄、白目、大粒で楕円形
5月-8月下、9月上	薄く条播		"	種皮淡褐色、香りがよい
11月下-5月下		もやしで飴を作る	"	
4月頃-6月下から収穫可		煮豆	"	種皮赤紫、楕円粒
7月上頃-10月下頃		"	"	種皮白地に赤褐色、楕円粒
7月上頃-10月下、11月上		あん	"	種皮赤紫、平成9年度産種子
6月麦の後-9月中下	畝立てで薄く条播、間引き	もち、ご飯に混ぜる	"	穎淡褐色
4月-7、8月		若穂を生食、炒ってお茶	"	種皮黒紫、草丈1m余り、穂長約10cm
7月上-10月下	移植	煮豆、昔は味噌	傾斜地	種皮黄、黒目、丸粒、西牟婁のイチノセの妹より入手
6月中-10月下から		あん	"	種皮赤紫、晩生、大粒
6月下、7月上-11月下から	移植	煮豆	"	種皮黒、黒目、偏平粒、平成9年度産種子
"	"	"	"	種皮緑・黄混
7月頃-11月頃		煮豆、さや食	"	種皮黒、腎臓型粒、つるが延びる
6、7月頃-お盆頃収穫		もち、冬至に南瓜と炊く	傾斜地	脱ふ種子、果皮色白
7月25日頃-11月上	サトイモと間植	あん、赤飯、善哉	平坦地	種皮淡赤紫

Table 2 List of collected samples  
収集品リスト

収集番号	学名	作物名	呼称	収集地	農家名
NC980043	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロイダイズ	和歌山県西牟婁郡大塔村下川上 しもかわかみ Alt. 201m	久保 タマエ
NC980044	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオイダイズ	"	"
NC980045	<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ	タカキビ	"	柿平 みちえ
NC980046	<i>Glycine max</i>	ダイズ	シロダイズ	和歌山県西牟婁郡大塔村面川めん がわ Alt. 182m	佐賀野 正夫
NC980047	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロダイズ	"	"
NC980048	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	ナツアズキ	"	"
NC980049	<i>Panicum miliaceum</i>	キビ	イナキビ	和歌山県西牟婁郡大塔村面川めん がわ Alt. 207m	岡本 正一 まさいち
NC980050	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ウズラマメ	"	"
NC980051	<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ	タカキビ	"	久保 正夫
NC980052	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	和歌山県西牟婁郡すさみ町佐本栗 垣内くりがいと Alt. 146m	中本 雪代
NC980053	<i>Glycine max</i>	ダイズ	アオダイズ	"	"
NC980054	<i>Glycine max</i>	ダイズ	クロマメ	"	"
NC980055	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	オクアズキ	"	"
NC980056	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	オクアズキ	和歌山県東牟婁郡古座川町西川 (船原) Alt. 120m	田口 秋良 あきら
NC980057	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	ナカアズキ	"	"
NC980058	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ミドリダイズ	"	"
NC980059	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	ウズラ	"	"
NC980060	<i>Sorghum bicolor</i>	モロコシ	キビ	和歌山県東牟婁郡古座川町西川 (下番しもばん)	杉本 多恵子
NC980061	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ナツダイズ	"	"
NC980062	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	キントキ	"	"
NC980063	<i>Phaseolus vulgaris</i>	インゲン	インゲン	"	"
NC980064	<i>Vigna angularis</i>	アズキ	アズキ	和歌山県東牟婁郡古座川町中崎 Alt. 8m	後展・テルヨ ひらく
NC980065	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"
NC980066	<i>Vigna unguiculata</i>	ササゲ	ササゲ	"	"
NC980067	<i>Sesamum indicum</i>	ゴマ	ゴマ	"	"
NC980068	<i>Phaseolus vulgaris</i>	アズキ	アズキ	和歌山県東牟婁郡古座川町小川 こがわ(洞尾うつお)	中井 薫
NC980069	<i>Phaseolus vulgaris</i>	アズキ	ナツアズキ	和歌山県東牟婁郡古座川町小川 (瑞庄ずいしょう)	田中美子
NC980070	<i>Arachis hypogaea</i>	ラッカセイ	ソコマメ	"	"
NC980071	<i>Vigna unguiculata</i>	ササゲ	ササゲ	和歌山県東牟婁郡那智勝浦町熊 瀬川 Alt. 37m	榎本 和子
NC980072	<i>Phaseolus vulgaris</i>	アズキ	ナツアズキ	和歌山県西牟婁郡上富田町かみと んだちょう鳥淵とりぶち Alt. 23m	芝 てる子
NC980073	<i>Glycine max</i>	ダイズ	ダイズ	"	"

Table 2 List of collected samples  
 収集品リスト

栽培時期	栽培法	利用法	地形	その他の情報
7月25日頃-11月上		煮豆、豆腐、味噌	平坦地	種皮黄、褐色目、丸粒、早く播きすぎると雑草が茂ってカメムシがつく
"		煮豆	"	種皮緑、白目、楕円粒、炊くと柔らかい
3月下、4月-6月下、7月	移植、株間50-60cm	ほうき、もち、かゆ	"	果皮濃赤褐
6月下-11月上		煮豆、みそ	傾斜地	種皮黄緑、白目、楕円粒
"		煮豆	"	種皮黒、黒目、楕円粒、岡本正一氏より入手
3月下、4月上-5、6月		赤飯、あん	"	種皮赤紫、小粒、早生
4、5月-8月中	薄く条播、間引き	もち、ご飯に入れる	平坦地	穎白褐色、平成9年度産種子、草丈1.2mくらい
3月下-梅雨前		煮豆	平坦地	種皮淡赤紫、腎臓型粒、雨に弱く立毛で発芽しやすい。30年くらい前に百間滝付近の知人にもらった、非つる性、さや堅く食べられない
5月頃-10月	移植	団子、米とまぜてもち	"	種皮濃赤褐色、草丈1.5mくらい。草丈に高低の2種があり、高い方(本系統)の方がおいしい。百間滝付近の知人にもらった
4月頃-11月	移植、株間30cm	味噌、煮豆	"	種皮黄、褐色目、丸粒、草丈地のサイズより低い。同じ集落の山崎貴美子氏より入手
"	"	煮豆	"	種皮緑、白目、丸粒草丈高め、柔らかくておいしい
"	"	"	"	種皮黒、黒目、偏平粒、やや晩生、作りにくい
7月中-10月上	移植	あん、赤飯	"	種皮赤紫、小粒、ナツアズキよりあんの量が多く、美味で色が濃い
7月10日~15日-11月	移植または直播	"	"	種皮赤紫、小粒、以前は畦豆として栽培
6月中-10月頃	"	"	"	種皮赤紫、小粒だがNC980056よりは大粒
7月10日~15日-10月中	移植	煮豆	"	種皮緑、白目、丸粒
4月中-6月中		"	"	種皮茶、赤紫斑、腎臓型粒、非つる性
5月上-9月	丈10cmくらいで移植	もち、ご飯に入れる	—	種皮淡赤褐色
5月上-9月上		主に味噌、煮豆にも使う	—	種皮黄、黒目、丸型の小粒
4月-9月頃		煮豆	—	種皮赤紫、楕円粒、非つる性
"		さや食	—	種皮白、腎臓型粒、つる性
7月-10月下	田の畦に植える	あん、赤飯	平坦地	種皮赤紫、小粒、早生、白さや
5月田植え後-9月頃		味噌、煮豆	"	種皮黄、黒目、丸型でやや小粒
5月頃-8月下、9月	サツマイモと間作	茶粥、あん	"	種皮赤紫、アズキよりやや色が浅くあっさりしている
4月頃-9月頃		煎ってする	"	種皮褐色
10月中、11月中収穫	移植	あん、赤飯	—	種皮赤紫、小粒、黒さや
5、6月-8月下	点播、株間30cm	"	平坦地	種皮赤紫、小粒
5月田起こしの頃-11月		煎って食べる、煮豆、豆腐	"	
5月頃-8、9月	イモの溝に播く	粥、豆ご飯	"	種皮黒、さや15cmくらい、大粒、大野の大東おひがしさんからもらった
4、5月頃-7月頃	移植	赤飯、あん	"	種皮赤紫、小粒、年に二作可能
7月中-11月下	"	煮豆、味噌	"	種皮黄、黒目、丸粒

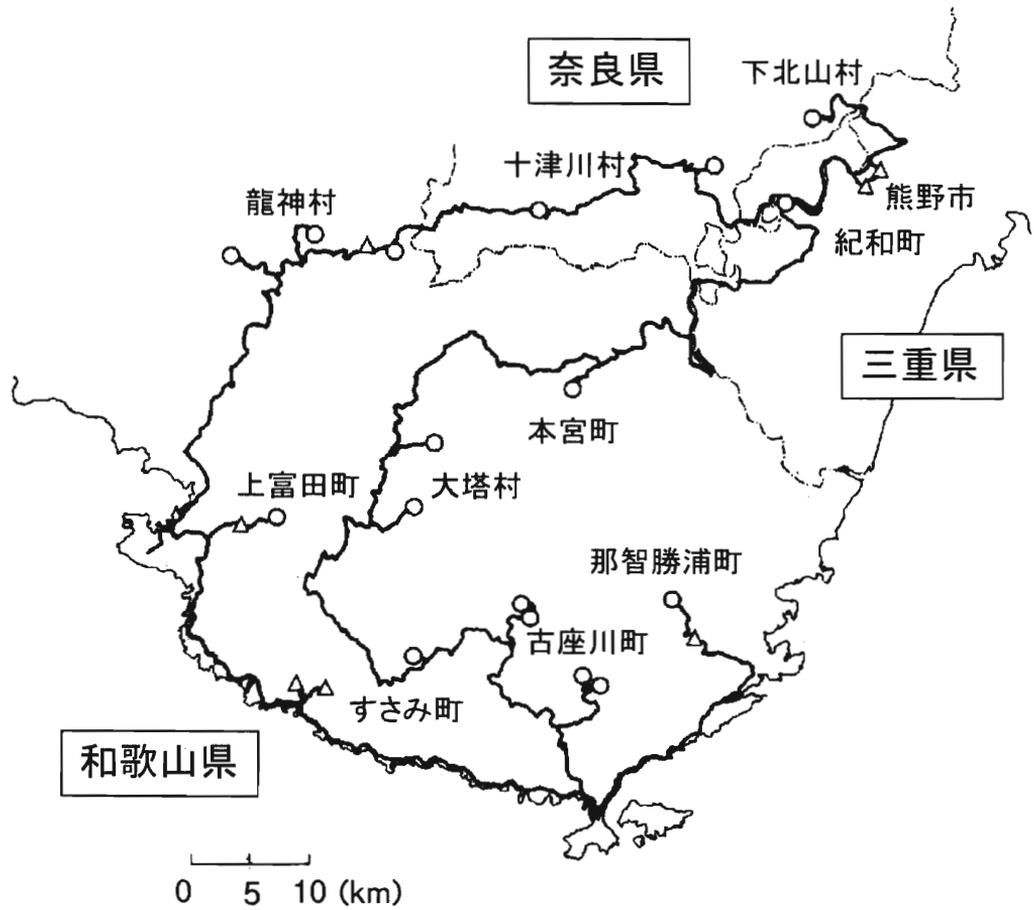


Fig.1 Exploration route and visited sites

探索経路と調査地点

○調査と種子の収集を行った地点

△調査のみを行った地点